

延命煙草地蔵[地蔵]

この小さな祠は、子どもや旅行者の守護者として知られる仏、地蔵菩薩を祀ったものである。地蔵菩薩は日本中でよく見かけることができ、丸坊主の頭と優しい表情が特徴だ。赤い頭巾と色鮮やかな前掛けをよく身につけているが、これらは地蔵菩薩が子どもを見守って保護してくれるようにとの願いから、人々が供えたものである。

このような道端にある小さな祠は地元の人々によって建立、保全されるのが一般的だ。第二次世界大戦前、この地域には遊郭があり、地蔵菩薩が妊娠や庇護の問題に適した仏だったことから、一帯で働く遊女たちがこの祠によく訪れるようになった。通常、祠で祈る際は線香を供えるが、遊女たちは代わりに煙草に火をつけて供えていた。その後、時の流れとともに、この煙草との結びつきに興味を引かれた喫煙者たちが、禁煙の願掛けや、煙草で健康を害さないよう祈るために訪れるようになったのである。

一般的な参拝方法は、まず煙草または線香に火をつける。火は吹き消さずに扇いで消し、祠の前にある皿に線香また 8 月にはこの神社で大蛇祭りが催されは煙草を置く。次に、地蔵菩薩の注意を引くため賽銭箱に硬貨を投げ入れ、右側にある小さな共鳴鉢の側面を付属の小槌でたたく。最後に胸の前で手のひらを合わせ、お辞儀をして祈る。